



目次

CBD COP11 と GBIF..... 2

生物多様性国際会議でデータ共有を推進

GBIF 刊行物..... 2

生物種名目録作成の新しいガイド
生物多様性データにピアレビューを提案

インフォマティクス..... 3

IPT v2.0.4 公表
GBIF データポータルの日本語版およびポーランド語版を公開

科学と政策..... 3

『GBits Science Supplement』の新規論文件数が最多記録
GBIF を介したデータの活用例を公開

新規データ..... 4

アルゼンチン
アイルランド
コロンビア
ドイツ
アメリカ
オランダ・クロアチア
ベルギー
フランス・グアドループ
日本

GBIF ネットワーク内外の活動... 5

ノルウェーのデータ公表件数が高評価
GBIF ベルギーノードのデータポータルを開設

トレーニングセミナー..... 6

生物学コレクションを次のレベルに

今後のイベント予定..... 6

ブラジル GBIF に参加

ブラジルが新たに GBIF に参加し、世界でも有数の生物多様性を誇る国との科学協力で新たな展開が始まります。この正式参加は、ブラジルの科学者、政府関係者や政治家の他、生物多様性インフォマティクスに携わる世界中の人々から歓迎されています。

ブラジルの GBIF 参加決定に対する各界の反応

「これは素晴らしいことです。ブラジルが生物多様性を賢く活用し、新たな発展を遂げる方法を学ぶ上で大きな進展となります。」上院議員 **Rodrigo Rollemberg** 議員 (上院環境委員会委員長)、11 月 9 日のブラジル上院議会における演説から。

「GBIF メンバーは皆興奮しています。ブラジルの GBIF 参加が生物多様性の管理保全に向けた世界規模の運動を推進する上で鍵になると多くの国は、考えています。」
GBIF 理事会理事 **Joanne Daly**

「ブラジルが GBIF に正式に加盟することは、この国の広大な自然資源を管理するための知識が重要であることを示すしるしです。」ブラジル科学技術革新省 (MCTI) 政策調査開発局長 **Carlos Nobre** 氏



ブラジル代表团団長代理である科学技術革新省 Mercedes Bustamante 氏がコペンハーゲンの GBIF スタッフからネットワーク正式加盟のお祝いを受ける。

Marco Antônio Raupp 科学技術革新相が 10 月 24 日に GBIF 覚書に署名を行い、ブラジルが正式に GBIF 協力団体となりました。ブラジルでは、現在 2800 万米ドルを投じて、地球環境ファシリテーター（GEF）の協力のもと、ブラジル生物多様性・生態系情報システム（SIB-Br）を立ち上げています。ブラジルの GBIF ナショナルノードでは、今後 GBIF ネットワークを通じてこのシステムにアクセスできるようにインターフェイスを開発し、データ活用を推進することとしています。

詳細については[こちら](#)をご覧ください。

CBD COP11 と GBIF

生物多様性条約締約国会議でデータ共有を推進

GBIF は、インド・ハイデラバードで 10 月に開催された生物多様性条約（CBD）第 11 回締約国会議（COP11）において、諸団体が生物多様性および生態系のモニタリングに使うことのできるデータの質と量を高めるための支援を行いました。

GBIF 本部は、他の協力機関と共に CBD と協力協定を結び、地球規模侵入生物種情報パートナーシップ（GIASIP）を立ち上げました。この組織は、生物多様性を脅かす主要原因となっている外来種の問題に対し、各国政府が取り組む際に活用できる情報の共有を推進するものです。

侵入生物種に関する今回の COP の決定は、「オンライン・データベースやネットワークの相互互換性を高め、リスク・影響アセスメントを行う際の情報活用を推進する GBIF の事業に対する評価を示すものであるとともに、締約国、政府機関や関連諸機関に対して、早期発見・迅速対応システムの開発に用いることができる互換性のある情報システム開発に参画することを期待する」ものであると表明されました。

更に、COP11 期間中に次のイベントが行われました。

- GBIF 事務局主催によるサイドイベントにおいて、地球規模生物多様性情報概況（GBIO）の進捗状況について報告が行われました。GBIO とは、データの取込み、アクセスやモデル化を推進することにより生物多様性の理解を深めるとともに、諸国による生物多様性保全目標の達成を支援する枠組みです。

- 別のサイドイベントでは、GBIF 参加団体を始めとする諸機関により、新規情報源から得られた生物多様性データのオンライン公開に関する発表がありました。データには、インドの野生生物管理官が設置した自動撮影カメラが捉えた映像の他、地方自治体が収集したデータや影響アセスメントに用いるデータが含まれています。

- GBIF 事務局長 Donald Hobern は、世界植物保全戦略（GSPC）が定める目標の達成を目指した植物データ活用方法の他、国レベルでの施策について発表を行いました。

本記事の詳細な内容は[こちら](#)をご覧ください。

GBIF 刊行物

種名目録作成の新しいガイド

GBIF は、国レベルで策定する種名目録に盛り込むべき情報について方法手順を示したガイドを新たに公表しました。

この『種名目録作成、維持管理及び普及のための実践ガイド』は、各国が生物多様性データを記録し、管理する能力を強化する手段となります。このガイドには、南アフリカにおいて目録を作成した際の経験に基づいて、他の国にも有益な知恵や情報が提供されており、GBIF のオンライン・リソース・センターから無料で入手できます。

ダウンロードは[こちら](#)から。

生物多様性データにピアレビューを提案

GBIF が作成依頼した討議用ペーパーによれば、生物多様性データセットを発表する場合には、ピアレビューを行う選択肢を考慮すべきであるとしています。



侵入生物種情報に関する協定書に署名する CBD 事務局長 Bráulio Dias 氏と GBIF 事務局長 Donald Hobern



この提案を始めとする一連の提言が、Mark Costello 氏らによる『Quality assurance and intellectual property rights in advancing biodiversity data publication (生物多様性データの公表に伴う品質保証及び知的財産権)』と題する論文に示されています。

この論文では、データ品質上の問題があるために、研究者が大規模な生物多様性データベースの利用を躊躇しており、ひいては社会にも損失となっていると述べています。ピアレビューは、GBIF などのオンライン・ネットワークにより公表されるデータセットに対して最高の品質保証を行う基準であるとされています。

この討議用ペーパーのダウンロードは[こちら](#)から。

インフォマティクス

IPT v2.0.4 を公表

GBIF 事務局は、10 月にインテグレートド・パブリッシング・ツールキット (IPT) の第 2.0.4 版を公表しました。今回のバージョンでは、ソフトウェアに 100 を超えるバグ修正や改善を施し、生物多様性データの公表が簡単に行えるツールとなっています。

今回の改正に際しては、ベルギー、台湾及びコロンビアの GBIF ノードから参加したボランティアの方々への翻訳の労をとって頂いたことを感謝とともにご報告します。

今回の変更点については、[GBIF 開発者ブログ](#)で読むことができます。

GBIF データポータル日本語版およびポーランド語版公開

[GBIF データポータル](#)に、日本語及びポーランド語のインターフェイスが完成しました。GBIF 加盟国である日本及びポーランドの菅原秀明氏と Piotr Tykarski 氏の尽力によるものです。

言語設定は、<http://data.gbif.org/settings.htm>で変更することができます。

科学と政策

『GBits Science Supplement』の新規論文件数が最多記録
『GBits Science Supplement』の最新号 (2012 年 10~11 月分) では、GBIF を介して入手したデータを用いた新規ピアレビュー研究論文が 60 件を超えたことが報告されました。その中には、南米の植物種多様性への脅威や保護地区の優先的地域に関し大規模な評価を行ったものや、ナツメヤシ栽培に適した地域の移動を予測したもの、昆虫媒介性ヒト感染症拡大の予測モデルを論じたものがあります。

『GBits Science Supplement』のダウンロードは[こちら](#)から。

GBIF を介したデータの活用例を公開

9 月に開催された 2012 年 GBIF 科学シンポジウムでは、生物種分布に関する公開データを科学研究や政策決定に活用するメリットが紹介されました。

シンポジウムでは 2012 年 GBIF エベ・ニールセン賞を受賞した[ミシガン州立大学の Nathan Swenson 氏](#)を始めとして 8 名の研究者による講演が行われ、氏にはシンポジウムに先立って 3 万ユーロの賞金が授与されました。



2012 年エベ・ニールセン賞を受賞した Nathan Swenson 氏。

講演では、GBIF を介してアクセスできるデータを用いて、気候変動が生物種や生態系に及ぼす影響を予測する方法が取り上げられた他、気候変動による影響を強く受けると考えられている北極圏における生物多様性データの研究が複数の講演者により紹介されました。

本シンポジウムでは、以下の研究が報告されました。

- 大規模データベースを利用した植物機能進化マップの作成及び気候影響モデルの改善方法
- 気候変動が 5 万種以上の生物種の分布域シフトに及ぼす影響に関する将来予測モデル
- 慎重な産業開発地域計画の策定を支援するツールの開発
- 絶滅危惧種ホッキョクギツネのスカンジナビアにおける将来分布を非捕食種及び競争種データに基づいて予測する方法
- 気候変動下における北方系植物遺伝的多様性を評価する方法
- 枯死木に依存する生物種の多様性分析
- 気候変動による菌子実体形成期の変化に関する観察
- 気候その他の要因が北極におけるウミドリ分布に及ぼす影響の予測

各講演者による発表及びインタビューは、[オンライン](#)でご覧頂けます。

本科学シンポジウムは、ノルウェーのリレハンメルで開催された第19回 GBIF 理事会 (GB19) に合わせて開催されました。GB19 には、28ヶ国と5国際機関を代表して80名の参加者がいました。GBIF 常設委員会では、英国ノードマネジャーである Stephen Wilkinson 氏がノード委員会の委員長に選出されました。Wilkinson 氏は、[英政府共同自然保全委員会 \(JNCC\)](#) の情報アクセスプログラムの責任者であり、英国における生物多様性データの活用を促進する国家生物多様性ネットワーク (NBN) の開設にも深く関わってきました。ノード委員会の副委員長には、ガーナ GBIF ノードの Alex Asase 氏とコスタリカのノードマネジャーである Manuel Vargas 氏が新たに選出されました。

新規データ

アルゼンチン

[アルゼンチン科学技術革新省](#)では、最近データ公表を開始しましたが、2006~2010年の期間に定期的に観測したチドリ (grassland plovers) に関する 4200 件の記録を公表しています (<http://data.gbif.org/datasets/provider/463>)。

また、[国立パタゴニアセンター \(国立科学技術研究審議会 \[CONICET\]\)](#) は、アルゼンチン国内の両生類に関する 365 件のデータを公表するとともに (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14429>)、[ラプラタ国立大学](#) 科学部では、バッタ、キリギリス及びゾウムシに関する 1700 件のデータを公表しました (<http://data.gbif.org/datasets/provider/47>)。

コロンビア

コロンビアの GBIF ノードである [アレクサンダー・フォン・フンボルト研究所](#) は、所蔵するほ乳類、鳥類、魚類、両生類、甲虫類及び半翅類の資料のうち 144,000 件のデータを公表しました。公表された資料には、ボゴタにあるフェデリコ・メデム植物園が有するコレクションのデータも含まれています (<http://data.gbif.org/datasets/provider/262>)。

ドイツ

[ドイツ連邦自然保護庁 \(Bundesamt für Naturschutz\)](#) は、ドイツに生息する植物のオンライン・データベースである [Floraweb](#) から、維管束植物に関する 390 万件のデータを公開しました (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14519>)。

アイルランド

アイルランドの [2012年バイオブリッツ](#) でボランティアが収集した 5000 件を超えるデータに対して、GBIF データポータルからのアクセスが開始されました。これは、科学者・学生・一般の人たちが一緒になって、指定された場所で 24 時間以内にできるだけたくさんの生物種を見つけるイベント「バイオブリッツ」の大会で、年に一度開催されています



2012年バイオブリッツで調査を行うボランティア

GBIF ノードである [国立生物多様性データセンター \(NBDC\)](#) は、今年のバイオブリッツの優勝者がクローフォーズバーン・カントリーパークであり、980 を超える生物種が記録されたと発表しました。このイベントで収集したデータは、<http://data.gbif.org/datasets/resource/14458> からアクセスできます。

NBDC では、『アイルランド哺乳動物地図』調査で収集したおよそ 16,000 件のデータを公表しました。この調査は、2010年4月から2015年まで行われ、国内の様々な自然保護団体やほ乳類研究者が共同して、アイルランドに生息することが判明している 64 種類の動物の分布状況を調べるものです。64 種類の内訳は、37 種類の陸棲ほ乳動物 (10 種類のコウモリ類を含む) と 27 種類の海棲ほ乳動物です (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14459>)。

NBDC は、アイルランド政府の法定諮問機関である文化遺産評議会 (Heritage Council) と 5 年契約を新規に結びました。GBIF ノードマネジャーである Liam Lysaght 氏は、「この契約は、当センターの事業が認められたものであるとともに、生物多様性データがアイルランドの多様な生物の保全にとって重要であることを示すものです。」と述べています。

NBDC には、2012年10月に開かれたアイルランド地理情報機構 (IRLOGI) 年次総会において、「最優秀投資回収ビジネスケース」賞が授与されました。詳細については [こちら](#) をご覧ください。



アメリカ

米国農務省 (USDA) 傘下の研究所が実施した北米におけるマルハナバチの広範な減少パターンを追跡した研究から、30,000 件のデータが公開されました。USDA ハチ生物学・分類学研究所 (Bee Biology and Systematics Laboratory) は、ユタ州立大学内にあり、数百種ものハチの研究を通して農作物の受粉管理に関する課題を研究しています (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14547>)。

ワイオミング大学脊椎動物博物館は、北米のほ乳動物コレクションから 3700 件のデータを公開しました (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14435>)。

オランダ・クロアチア

オランダほ乳類学会は、最近データ公開を開始しましたが、近年実施したネズミ捕獲研究から 2300 件の観察記録を公表しています (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14478>)。

オランダほ乳類学会は、クロアチアにあるビオコボ自然公園で 2011 年 7~8 月にかけて調査した 424 件のほ乳動物データを公表しました。ビオコボ自然公園は、同国第二の標高を誇る山岳地帯であり、ダルマチア海岸沿いに位置しています (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14501>)。

ロッテルダム自然史博物館も最近データ公開を開始しましたが、傘下の国際貝化石博物館所蔵のコレクションから 31,200 件のデータが公表されました。このコレクションに含まれる軟体動物の化石は、200~5800 万年前のものです (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14503>)。

ベルギー

自然森林研究所 (INBO) は、9 箇所の水域におけるチャブ、デイス、イソアイナメ、ブラウン・トラウトの再導入事業の評価に用いた 3700 件のデータを発表しました (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14486>)。この研究所は、フランドル地方の魚道に関連する 16,500 件のデータも公表しています。これらの魚道は、水車や水門などの構造物により魚の遡上が阻害されている河川において、魚の通行を可能にすることを目的として造られたものです (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14492>)。

ベルギー、テルビュレンにある王立中央アフリカ博物館からは、10,000 件を超える木材標本データが公開されています。世界中から 13,600 種 56,000 件の標本が収集されており、ヨーロッパでは最大級のコレクションとなっています (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14521>)。

フランス・グアドループ

グアドループにあるアンティル・ギアナ国立農学研究所 (INRA) では、最も普及している 3 種類のヤマイモ 430 件のデータの他、西インド諸島の熱帯雨林に生育する野生種ヤマイモのデータを公表しています。このデータセットには、1970 年代から行ってきた調査・収集の成果である 500 種以上の遺伝子型が収録されています (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14488>)。

日本

2012 年 10 月に東京及び地方にある 5 博物館から、15,900 件のデータを含む 5 組のデータセットが公表されました (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14525>)。また、山階鳥類研究所から 30,000 件のコレクションデータが公表されています (<http://data.gbif.org/datasets/resource/14533>)。

GBIF ネットワーク内外の活動

ノルウェーのデータ公表件数が高評価

ノルウェーが GBIF を通してめざましい件数の生物多様性データを公表していることが、『サイエンス・ノルディック』ポータルサイトに掲載された論文において取り上げられています。昨年の公表件数は、それまでの二倍以上に及び、総計で 1700 万件となっています。その結果、ノルウェーは、人口が少ないにもかかわらず、公開データ件数ではヨーロッパで第 3 位、世界でも第 5 位に上昇しました。ノルウェーよりも件数が多い国は、米国 (10,800 万件)、スウェーデン (3,740 万件)、イギリス (3,710 万件) 及びオーストラリア (2,770 万件) となっています。

論文のアクセスは[こちら](#)から。

GBIF ベルギーノードのデータポータルを開設

ベルギーの GBIF ノードである生物多様性プラットフォームは、ドイツ、フランス、ベルギー、ルクセンブルクの一部を含む拡大地域の生物多様性に関するポータルサイトを新規に立ち上げました。

拡大地域とは、ライン川、モーゼル川、ザール川とミュズ川に囲まれた 65,000 平方キロの地域を言います。ポータルのアクセスは、[こちら](http://www.bio-gr.eu)から (<http://www.bio-gr.eu>)。

トレーニングセミナー

生物学コレクションを次のレベルに

10月8～11日コロンビアのビラ・デ・レイバにあるアレクサンダー・フォン・フンボルト研究所において、「生物学コレクション3.0」と称するワークショップが39名の参加のもと開催されました。

この訓練セミナーの目的は、地域で活動する上席収集管理者や学芸員の行う収集マネジメントを次のレベル(3.0)に押し上げて、生物多様性科学に関するグローバルな情報システムの一部へと発展させることにあります。このワークショップでは、相互互換性、画像、セマンティック・ウェブ、識別子、環境・分子データベースとの関連性及びGBIFの役割が取り上げられました。

このワークショップは、ラテンアメリカ及びスペインのGBIFノードが共同運営する組織である「[イベロアメリカ生物多様性情報インフラストラクチャー](#)」(I3B)が開催する4つの訓練セミナーの内、第一回目のセミナーとして開催され、アレクサンダー・フォン・フンボルト研究所の協力のもと、[コロンビア生物多様性情報システム](#) (SiB) と [スペインGBIFノード](#) が実施したものです。

ワークショップには、アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、キューバ、エクアドル、アメリカ、メキシコ、ニカラグア、ウルグアイ及びスペインから参加者が出席しました。このセミナーには、[GBIF事務局も部分的に支援](#)を行っています。

訓練セッションの資料は、<http://www.recibio.net/biological-collections-3-0/> から入手できます。

今後のイベント予定

第8回国際エコロジカル・インフォマティクス会議

2012年12月3～7日、ブラジル・ブラジリア
詳細は[こちら](#)。

第1回IPBES総会

2013年1月21～26日、ドイツ、ボン
詳細は[こちら](#)。

生物多様性情報アーキテクチャ・ワークショップ

2013年2月4～8日、南アフリカ、ケープタウン、キルステンボッシュ
詳細は[こちら](#)。

BioSyst.EU 2013 グローバル・システムティクス会議

2013年2月18～22日、オーストリア、ウィーン
詳細は[こちら](#)。

GBIF アフリカ地域会議

2013年4月14～19日、南アフリカ、プレトリア
詳細は[こちら](#)。

この会議と併行して、南アフリカ及びアフリカGBIF加盟諸国における生物多様性データ活用を推進するプロジェクト(JRS生物多様性基金が資金提供)に関するワークショップが開催されます。

GBIFのVision: 科学、社会及び持続可能な未来のために、生物多様性情報が全域で自由に利用可能な世界の実現を目指します。

GBIF 本部
Universitetsparken 15
DK-2100 Copenhagen Ø
Denmark
<http://www.gbif.org/>

GBIFのMission: 生物多様性情報を提供する世界随一の情報発信源となると共に、環境と人類の福祉に役立つ賢明な解決策を提供することを目指します。

電話 : +45 35 32 14 70
Fax : +45 35 32 14 80
E-mail: info@gbif.org
過去のGBits ニュースレター・アーカイブ :
<http://www.gbif.org/communications/resources/newsletters/>